実践２

個性化教育とＥＳＤ

―総合学習「生きる」をＥＳＤの視点で見直す―

東浦町立緒川小学校　原　伊津子

１　はじめに

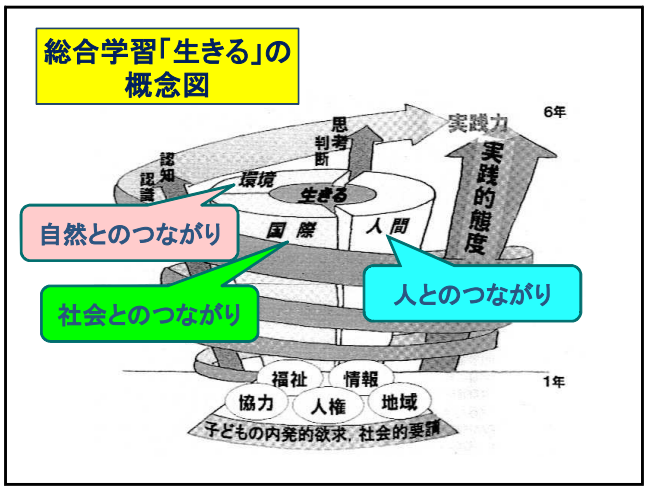
本校は，校舎内にオープン・スペースをもつ学校（オープン・スクール）として，今年で34年目を迎えた。これまで，一貫して「学習の主体者は子どもである」ととらえ，個別化・個性化教育の研究・実践を積み重ねてきた。総合学習の実践歴も長く，学習指導要領で「総合的な学習の時間」が創設される以前から，総合学習「生きる」として単元開発と実践に取り組み，体験からの学びを重視してきた。

総合学習の長い実践を支えてきたのは，地域のゲストティーチャーによる継続的な支援であると言える。しかし，長年にわたる実践で同じような学習が繰り返されることによって，ゲストティーチャーの支援を当たり前のものと受け止めるようになり，体験活動がそれだけで終わるような学習になってしまうこともあった。

そんな折に，「ＥＳＤ」との出会いがあった。

２　研究の目的

本校では，「生きる」を１年から６年までの共通主題とし，学年間の関連性や子どもたちの思考の流れを重視して総合学習を展開している。そのため，１，２年も生活科の目標や内容を取り込みつつ，３年以上の総合学習との関連を考えながら，総合学習「生きる」として取り組み，６年間の継続的な実践を行っている。



本校の総合学習「生きる」では，「人間としてよりよい生活を目指し，よりよい生活を考え，実践する力を育成する」をねらいとして，「自然とのつながり」「社会とのつながり」「人とのつながり」を大切に，自分自身のよりよい生き方を探究していこうとしている。このねらいを達成するために，左表のような各学年の活動の方向性とキーワードを設定している。そして，具体的な活動を子どもたちと話し合い，学習計画を立てて実践している。

総合学習「生きる」における各学年の活動

学年	活動の方向性	キーワード
1	学年を「くに」ととらえ，四季の行事を踏まえた活動をする。	【くにの一年】
2	自分自身を踏まえて，地域の自然や人々に触れる活動をする。	【探検】
3	地域に根ざした方々から学ぶ活動をする。	【交流】
4	身の回りの社会生活などくらしに関わる活動をする。	【くらし】
5	動植物，人間の生命に関わる活動をする。	【いのち】
6	様々な人の生き方から学ぶ活動をする。	【生き方】

教員がＥＳＤについて研究し，理解を深めるにつれ，本校の現在の総合学習のカリキュラム中にＥＳＤの要素がたくさんあること，そもそも，主体性を重視する個性化教育の精神がＥＳＤに合致していることに気付いた。

しかし，ＥＳＤの要素が含まれているとは言うものの，それぞれが点在し，関連付けたり深

めたりすることがない現在の状態では，とても「持続可能な発展のための教育」とは呼べない。

そこで，本校の総合学習「生きる」の現状をＥＳＤの視点で見直し，体験だけでなく，自分たちで考え，問題を解決し，持続可能な社会をつくるための基礎となる見方や考え方を身に付けることができるような学習になるように，改善を進めることにした。

３　研究の方法

(1) ＥＳＤの視点で見直した総合学習「生きる」のカリキュラム（ＥＳＤカレンダー）づくり

総合学習「生きる」を中心に，教科との関連を意識しながら年間計画を立て，それぞれの学習活動にＥＳＤの視点を位置付ける（p28, p38～42参照）。

①これまでの総合学習「生きる」の各活動を「自然とのつながり」「社会とのつながり」「人とのつながり」の３つに整理する。
②ＥＳＤの視点で見直し，よりＥＳＤの方向性と合致するように学習活動を改善する。
③よりＥＳＤの方向性と合致するように，関連する教科等の学習内容をカリキュラム上に位置付ける。
④それぞれの活動に関わるＥＳＤの視点を書き加え，ＥＳＤカレンダーとする。

(2) 「チェックシート型アプローチ」による実践の分析と改善の方向性の明確化

国立教育政策研究所の「学校における持続可能な発展のための教育（ＥＳＤ）に関する研究」に示された「チェックシート型アプローチ」を用いて，ＥＳＤカレンダーで設定した学習活動を内容と方法で整理する。

①これまでの実践でどのような内容（概念）や方法（技能）が扱われているのかを判別し，チェックシートの枠組みの該当する部分に記入する。
②よりＥＳＤの方向性と合致するように改善した点をチェックシートの空欄に記入し，方向性を明確にする。
③チェックシートに示されたＥＳＤの視点を意識して，実践を進める。

チェックシート

方法（技能）／内容（概念）	①批判的思考	②システム思考	③未来志向思考	④問題対処のｽｷﾙ **（主体性）**	⑤行動のスキル **（体験）**	⑥ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝのｽｷﾙ **（交流）**
Ⅰ人間の尊厳						
Ⅱ将来世代への責任						
Ⅲ人間を取りまく自然との共存**（環境）**						
Ⅳ経済的社会的公正　**（地域）**						
Ⅴ文化の多様性の尊重**（国際）**						

※ゴチック文字は本校の実践に合わせて追加

(3) ＥＳＤの視点を取り入れた授業づくり

ＥＳＤカレンダーとチェックシートによる分析に沿って，授業づくりをする。体験活動だけの学習にならないように，ＥＳＤの視点を明確にし，互いに関連付け，深め合うことを目指す。そして，次のような学びの方法を取り入れて，授業実践を行う。

- 地域の可能性を生かす（方法①）
- 参加体験型の手法を生かす（方法②）
- 学習者の主体性を尊重する（方法③）
- 現実的課題に実践的に取り組む（方法④）

以上のような方法で，各学年で実践を始めた。その中で，５年の総合を中心とした合科的単元「お米を育てて植物の命を学ぼう」の実践について紹介する。

４　研究の内容

本校の５年の総合学習「生きる」のキーワードは「いのち」である。命に関わる様々な学習活動の中で，「植物の命」を学ぶ活動として，毎年お米を育ててきた。運動場の一角に田んぼがあり，東楽会（地元の老人クラブ）がゲストティーチャーとして田植えから稲刈りまで指導してくださる（**写真１**）。充実した体験活動ができるが，苗の準備や田んぼの管理などを東楽会の方に頼りっきりとなり，子どもたちにとっては主な活動を体験するだけの学習になってしまいがちであった。

写真１　教えてもらいながら田植えに挑戦する

また，社会科では「米作りのさかんな地域」という単元で日本の米作りについて学ぶ。農薬の使用，農業人口の減少や高齢化，米の生産調整や輸入米などの問題点についても学習するが，総合での米作り体験と結び付けることはなく，実感を伴わない机上の学習になっていた。

「自然とのつながり」「体験型活動」「地域連携」といったＥＳＤの要素は含まれているものの，本当の意味でのＥＳＤにはなっていなかったこの単元と，この単元を中核とした５年総合の年間計画を，以下のように改善した。

(1) ＥＳＤカレンダーづくりによるカリキュラムの見直し

これまでの総合の年間計画に，関連する他教科の内容を加え，ＥＳＤの視点で見直した。

中心となる単元「お米を育てて植物の命を学ぼう」は，地域の方の協力を得ながら栽培活動をすることから，「自然とのつながり」と「社会とのつながり」の両方に位置付け，ＥＳＤの視点として「栽培活動」「体験的活動」「地域連携」「多様な世代の人と学ぶ」を設定した。また，改善点として一人一鉢の米作りを行うことによって「主体的な思考や行動」を加えた。さらに，理科「発芽と成長」，社会科「米作りのさかんな地域」，道徳「畏敬の念をもとう」，国語「自分の考えをまとめて討論をしよう」を関連付け，「現実的課題に取り組む」「望ましい未来を描く」を加えた。

このようにして，ＥＳＤカレンダーが完成した。今までの学習活動を一部改善し，教科等を関連付けることによって，ＥＳＤの視点が大きく広がった。また，体験だけではなく，探究的に学ぶことのできるカリキュラムとなった。以下に，５年のＥＳＤカレンダーを示す。

平成23年度　第５学年　総合学習「生きる」年間計画（「お米を育てて植物の命を学ぼう」を中心としたＥＳＤカレンダー）　東浦町立緒川小学校

テーマ「82人で感じよう，生きているもの全てに「一つの命」があり，その大切さを」

ＥＳＤの視点	４月	５月	６月	７月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
	活動を考えよう テーマを決めよう ② **主体的な思考**								※○数字は時間数		
自然とのつながり		羊の世話をして動物の命を学ぼう ② 羊の飼育・毛刈り（牧場の方の協力） **飼育活動・体験型活動**									
		お米を育てて植物の命を学ぼう ⑪			お米を育てて植物の命を学ぼう ⑩				お米を育てて植物の命を学ぼう ⑥		
社会とのつながり		代かき・田植え・一人一鉢の米作り （東楽会の方の協力） **栽培活動・体験型活動・地域連携** **主体的な思考や行動**			鳥対策・稲刈り・稲こき・餅つき （東楽会の方の協力） **栽培活動・体験型活動・地域連携** **主体的な思考や行動**				東楽会の方への感謝 **地域連携** **多様な世代の人と学ぶ**		
人とのつながり		林間学校を創ろう ⑫ 一人一役・自主運営キャンプ 「食生活」を見つめ直す **主体的な行動・つながり重視** **やり遂げたときの充実感**			フェスティバルを創ろう ⑰ コーナー・モニュメント **主体的な行動** **関わる人が互いに学び合える**		人の命について考えよう ⑦ 自分の誕生 福祉実践教室 **生命尊重** **多様性尊重**		人の命について考えよう③ 命に関わる活動をしている人から学ぶ 命について語る会 **生命尊重・多様性尊重** **多様な立場の人と学ぶ**		
教科等との関連		理科 ④ 発芽と成長 成長に必要なもの 社会 ③ 米作りのさかんな地域 農薬の使用 **現実的課題に取り組む**			道徳 ① 畏敬の念をもとう 自然の力を尊ぶ 社会 ② 米作りのさかんな地域 農業人口の減少や高齢化 米の生産調整や輸入米 **現実的課題に取り組む** **望ましい未来を描く**		国語 ⑫ 自分の考えをまとめて討論をしよう				

(2) チェックシート型アプローチによる分析と改善点の明確化

「お米を育てて植物の命を学ぼう」の単元で従来から取り組んでいた活動は，以下の４点である。

○１：東楽会の方からお話を聞き，おいしいお米を作るための秘(けつ)訣や心構えについて知る。

○２：あぜ塗りの様子を見学し，代かきと田植えに挑戦する。

○３：稲刈りと稲こきに挑戦する。もちつきをしておもちをいただく。

○４：東楽会の方に感謝の気持ちを込め，「ありがとうの会」を開く。

チェックシートを用いて分析してみると，地域の方と「交流」しながら（○１，○４）米作りを「体験」する（○２，○３）活動にとどまっていたことが明らかとなった。そこで，よりＥＳＤの方向性と合致するように授業を改善するために，以下の４点を実践に加えた。

●１：バケツで一人一鉢の米作りに挑戦する。稲の生長を考えてバケツを置く場所を決める。

⟶ 主体的に栽培活動に取り組ませる。

●２：学校の田んぼや自分のバケツ稲に，農薬を使うか使わないかについて考え，話し合う。

⟶ いろいろな意見を聞き多面的に考えさせる。

●３：農業人口の減少や高齢化の問題について考え，自分の意見をもつ。

⟶ 現実的課題に取り組み，望ましい未来を思い描かせる。

●４：国が米の生産調整を行っていることや，外国から米を輸入していることについて考え，自分の意見をもつ。

⟶ 社会や経済のシステムに触れ，事実と要因を結び付けて考えさせる。

チェックシートを用いての分析（５年「お米を育てて植物の命を学ぼう」）

方法（技能）／内容（概念）	①批判的思考	②システム思考	③未来志向思考	④問題対処のｽｷﾙ（主体性）	⑤行動のスキル（体験）	⑥ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝのｽｷﾙ（交流）
Ⅰ人間の尊厳						
Ⅱ将来世代への責任			●３			
Ⅲ人間を取りまく自然との共存（環境）	●２			●１	○２，○３	
Ⅳ経済的社会的公正　（地域）		●４				○１，○４
Ⅴ文化の多様性の尊重（国際）						

○は従来からあったと考えられる視点，●は改善点として加えられた視点

このように，チェックシート上に学習活動を位置付けたことで，改善によってＥＳＤの視点が広がったことを実感できた。また，それぞれの活動がＥＳＤのどんな概念や技能に関わっているかが明確になり，それを実際の授業で意識しながら指導することができると考える。

ＥＳＤカレンダーとチェックシートによる分析に沿って，次頁のような単元の学習計画を立てた。

第５学年　総合学習「生きる」
ＥＳＤに基づいた教育活動の学習計画

東浦町立緒川小学校

単元名（時間）	お米を育てて植物の命を学ぼう（48時間）
ＥＳＤの視点	自然とのつながり・社会とのつながり・栽培活動・体験型活動・地域連携・主体的な思考や行動・多様な世代の人と学ぶ・現実的課題に取り組む・望ましい未来を描く
ねらい	o 米作りを通して植物の命に触れ，生きるための「食」について関心をもち，自分の生活との関連を見付け，よりよい生活を送るための手だてを考えることができる。 o 日本の米作りを取りまく様々な条件を吟味し，これからの日本の米作りについて自分の考えをもち，発表したり友達の意見を聞いたりすることができる。

段　階（時間）	学習活動の流れ
①事実との出会い（２時間）	o お米作りについて東楽会の方から話を聞き，お米ができるまでに必要な作業や手順について知る。
②問題意識の集約化（0.5時間）	o お米ができるまでには，農家の方が手間暇かけ，心を込めて育てていることを知る。
③学習問題の明確化（0.5時間）	**お米作りを体験し，農家の方がどんな思いをもって育てているかや，これからの日本の米作りについて調べよう。**
④学習計画の立案（１時間）	o 東楽会の方から，お米作りに必要な作業と時期を教わる。 ・田おこし　・あぜ塗り　・代かき　・田植え　・稲刈り　・稲こき
⑤問題の追究（18時間）	o お米作りについての事前個人研究をする。（図書資料，インターネット） o 学校の田んぼであぜ塗りの様子を見学し，代かきと田植えに挑戦する。 o バケツで一人一鉢の米作りに挑戦し，稲の生長を観察する。 ・稲が生長するためにバケツをどこに置くとよいか考える。 ・害虫対策で農薬を使用するかしないか考える。 ・稲穂に害を与える鳥について調べ，鳥対策について考える。
（10時間）	o 農業人口の減少や高齢化の問題について考える。 o 国が米の生産調整を行っていることや，外国から米を輸入していることについて考える。 o 日本のこれからの米作りについて，グループ討論をする。 o お米の消費量を上げる方法を考える。
（10時間）	o 学校の田んぼで稲刈りと稲こきに挑戦する。 o 自分のバケツ稲の稲刈り，稲こきをする。 o 育てたお米の命をいただくことに感謝の気持ちをもち，もちつきをする。
⑥まとめ・吟味（２時間）	o 「命を育て，命をいただくこと」について自分の意見をまとめる。
⑦発展（４時間）	o 東楽会の方やお米の命に感謝の気持ちを込め，「ありがとうの会」を開き，学習の成果を発表する。

(3) 「お米を育てて植物の命を学ぼう」の授業づくりと学習活動の実際

ア　米作りについての話を聞こう…地域の可能性を生かす（方法①）

東楽会の方を学校に招き，おいしいお米を作るための秘訣（ひけつ）や心構えについてのお話を聞いた。お話の後，子どもからの「お米作りで一番大変なことは何ですか」という質問に，「60年前は，手を使ってくわで田おこしをしていたので大変だった。今は機械があるので，ずいぶん楽になった」と答えていただいた。「おいしいお米を作るには，何が大切ですか」という質問には，「よい土ときれいな水，あぜを通るときには稲に声をかけ，水が足りているかを確認すること」と答えていただいた（**写真２**）。

写真２　東楽会の方から米作りの話を聞く

60年も前からお米を作り続け，何でも知っている東楽会の方々に尊敬の念を抱き，お話を聞くうちに「これからお米を育てるんだ」「おいしいお米を作ろう」「東楽会の方に教えてもらいながら米作りに取り組もう」という気持ちが高まってきた。

イ　代かき，田植えに挑戦しよう…参加体験型の手法を生かす（方法②）

東楽会の方に教えてもらいながら，学校の田んぼであぜ塗りを見学し，代かきと田植えを行った。

代かきでは，全員がはだしになり，深さを確かめながら水を入れた田んぼにそっと足を入れた。直後に大きな歓声と悲鳴。土の感触を味わい，どろどろになりながら土の固まりをつぶした。「田んぼの中に入ったとき，とてもねっとりして普通の土と違うような気がした」「少し気持ち悪かったけど，おいしいお米ができるなら，これくらい我慢できる」「私たちは楽しみながら代かきをやっていたけど，昔の人は最初から最後まで自分の手でやっていて，機械がある今とは違って大変だったのだなと思った」との声が聞かれた（**写真３**）。

写真３　代かきの様子　　歓声？　悲鳴？

田植えでは，横１列に並び，田んぼ一面に自分たちの手で苗を植えた。「最初は簡単だと思っていたけれど，土の中に入ると足が動かなくなるから，とても大変だった」「足がはまって困ったけれど，昔の人たちも足がはまっていたのだろうと思いながらがんばった」「東楽会の人に教えてもらったとおりにやったら上手にできた」「おいしいお米ができるのを楽しみにしている」との声が聞かれた。

ウ　バケツで一人一鉢の米作りに挑戦しよう…学習者の主体性を尊重する（方法③）

写真４　自分のバケツに田植えをする

この活動は，今年度よりＥＳＤの視点で追加した。

学校の田んぼで共同で行う田植えに加えて，自分のバケツに土を入れて自分で田植えをした。その後，毎朝バケツ稲の水替えをして，生長の様子を観察した。自分の稲の生長を，毎日責任をもって観察するようにした結果，自分のバケツ稲に愛着をもち，お米を育てるという学習内容をより身近なものとしてとらえることができた。（**写真４**）

また，バケツに田植えをした後，自分のバケツを校内のどこに置いて稲を育てるかを，一人一人に考えさせ，決めさ

せた。子どもたちは，「日当たりがよい」「毎日登校したときに観察できる」という理由で玄関前に置いたり，「田んぼの稲と生長の様子を比較しやすい」という理由で田んぼの近くに置いたり，「他の木や花がよく育っている」という理由で中庭や校舎周辺に置いたりした。中には，「静かで落ち着いた環境なのでよく育つ」と考えて，校舎裏に置いた子どももいた（**写真５，６，７**）。

１か月ほどすると，場所によって生長に違いが出てきた。途中で場所を変更することも可能にしたため，校舎裏に置いた子どもには，玄関前などの日当たりのよい場所に変更する様子も見られた。

写真５　玄関前に置いたバケツ稲

写真６　校舎裏に置いたバケツ稲

写真７　田んぼの近くに置いたバケツ稲

エ　農薬を使うか使わないかについて考えよう…現実的課題に実践的に取り組む（方法④）

この活動も，今年度よりＥＳＤの視点で追加した。社会科「米作りのさかんな地域」の学習内容を実際の米作り体験と関連付けることによって，より身近に，自分のこととしてとらえることができると考えた。

田んぼの稲もバケツの稲も順調に育つ中，毎日の観察で稲に虫がついているのを発見した子どもがいた。そこで，田んぼに来る生き物について調べ，稲にとって害のある虫と害のない虫の存在を知った。害のある虫から稲を守るために農薬を使うという方法があることを知り，田んぼや自分のバケツ稲に農薬を使うか使わないかについて考えることにした。

図書資料で調べ始めた初期の段階では，農薬について「害虫を退治する薬」というより「虫を殺す悪い薬」というイメージが強く，「使わない」という子どもが圧倒的に多かった。（**表１**の①）食の安全という面では無農薬が理想かもしれないが，現実として農家にとっての収穫や消費者への供給のことを考えると，理想を追ってばかりもいられない。

そこで，農薬を使って米作りをしている営農センターの方と農家の方をゲストティーチャーとしてお招きし，お話を聞くことにした。お二人は，農薬は必要であると話され，特に「日本全体で農薬を使わないと，収穫量は半分になってしまう。茶わん１杯ご飯を食べるところが半分になり，いつもおなかがすいた状態になる」「農薬を使っても使わなくても，お米の味は変わらない」という話が子どもたちの心に突き刺さった。

このような状態で，農薬を使うべきか使わないべきかを話し合う授業を行った。最初に農薬のよい点と悪い点を確認し，バケツ稲の世話について思い出させた。ゲストティーチャーの話にも触れ，更に学校の田んぼの広さがバケツの1400個分もあることを知らせた。様々な情報を提示したところで，子どもたちに「学校の田んぼには農薬を使いたいか使いたくないか」と問いかけた。「使う」と答える子どもが大幅に増え，「使わない」と答えた子どもはたった一人だった。（**表１**の②）授業前のゲストティーチャーの話を真剣に受け止めた様子がうかがわれるとともに，大人が自信をもって話す言葉の影響の大きさを感じた。

その後，それぞれの立場で意見を出し合い，農薬の是非について話し合った。「使う」という子どもは，「害を与える虫を退治できる」「使わないとお米の取れる量が半分になってしまう」「味が一緒

なら使った方がいい」「1400株もあると虫が来ても取ることが大変なので使う」と主張した。それに対して，最初から最後まで「使わない」を貫いたＡさんは，「農薬は土に混じり，水に混じり，結局，海に着いてそれを魚が食べる」「もし農薬が川に流れたら，田んぼに引く水にも移ってしまい，農薬を使っていない田んぼにも入ってしまう」「農薬を使ったら，害を与える虫を食べてくれる虫まで殺してしまう」と自分の思いを述べた。それを聞いて，「使う」の立場の子どもたちから「基準を守って少量使う」「必要な分だけ使う」「田んぼは広いから農薬を使い，バケツ稲は害虫を自分の手で取って退治する」との意見が出てきた。最後に，「使う」の立場のＢさんが「虫が死んじゃうから使わないんじゃなくて，自分たちの命を優先しないといけないので，お米の取れる量が半分にならないために農薬を使う」と，食物連鎖にも関わる発言をした。この時間の学習はここで終わったが，Ｂさんの意見は大切に温めて，今後の「いのち」の学習にも生かしていきたいものであった。

話し合いの後で農薬の使用について尋ねると，「田んぼには使うがバケツ稲には使わない」という意見が多かったものの，「使う」を貫く子どももいれば「使わない」を貫く子どももいた。（**表１**の③）いろいろな意見を聞き，様々な考え方があることを知って，いろいろなことを思い，気持ちが揺れながらも自分の考えをまとめたことがうかがえた。

それぞれの出した結論は，その後，自分のバケツ稲で実践することにした。「使う」と決めた子どものバケツ稲には，基準どおりの農薬を散布した。

表１

農薬使用についての意見の移り変わり（５年２組４１名）

農薬を使うか使わないか	
①図書資料で調べた後	
使う ９人	使わない ３２人

↓

ゲストティーチャーの話を聞く

↓

農薬を使うか使わないか	
②話し合いの授業の始め	
使う ４０人	使わない １人

↓

農薬の使用について話し合う

↓

農薬を使うか使わないか	
③話し合いの授業の終わり	
田んぼには	
使う ３７人	使わない ４人
バケツ稲には	
使う １８人	使わない ２３人

５　研究のまとめと今後の課題

(1) ＥＳＤの視点で見直した総合学習

自然・社会・人とのつながりを意識して体験活動をしていたが，ゲストティーチャーに頼ることが多く，受け身の姿勢で活動することが多かった本校の総合学習は，より探究的な学習に迫るためにＥＳＤの視点を取り入れ，教科等と関連的に学習することによって，主体的に追究していく学習に変わってきた。

５年の米作りの実践では，毎朝欠かさずに重いバケツ稲の水替えをしたり，農薬について友達の意見を聞きながら「でも，ぼくは農薬を使いたくない」と主張したりする様子から，ＥＳＤが目指す姿に一歩近付くことができたのではないかと思う。

この単元ではその後，稲穂が実り始めたころに，稲に害を与える鳥やその対策について調べ，話し合って，自分なりの方法でバケツ稲の鳥対策を実行した。バケツにミニかかしを立てたり，ＣＤなどのきらきらするものを取り付けたりと，一人一人が様々な工夫でバケツ稲を守ろうとした。やがて収

穫のときを迎え，田んぼは鎌を使って，バケツ稲ははさみを使って稲刈りをした。最終的には，農薬を使わなかったバケツ稲も，使ったバケツ稲と同じように実り，ほぼ同じ量の収穫があった。

同時に，「稲刈りとは，稲が死ぬことなのか」という疑問が子どもたちの中からわき上がってきた。そこで，計画にはなかったが，このことについて話し合うことにした。「そう思う」という子どもたちは「人間に例えると身を切るのと同じこと」「次の稲は別の命だ」という理由を挙げた。「そう思わない」という子どもたちは「食べておいしいと言ってもらいたいはず」「食べても心の中に残る」「次の稲につながるから，次の命につながる。人間も同じ」という理由を挙げた。この問題も結論は出ないが，ＥＳＤの視点でバケツ稲を育てる経験を通して，できたお米に生命を感じ，いとおしく思う気持ちが伝わってきた。

(2) 個性化教育とＥＳＤ

農薬の使用について話し合う授業の始めに，「使わない」と表明したのはＡさん一人だった。これは大変勇気のいる行動であり，ともすれば大勢の意見に押されて孤立したり，それを避けて自分の思いを曲げてしまったりすることが心配される。しかし，そうならずに一人でも堂々と主張し，周りの子どももそれを受け止め，自分の考えと比較しながらお互いに学び合うことができたのは，本校がこれまで取り組んできた個を大切にする教育があったからではないかと思う。

この事例からも，個性化教育の精神がＥＳＤと合致することが分かり，本校に個性化教育というベースがあったからこそ，ＥＳＤの導入も抵抗なく進んだと考えられる。

(3) 今後の課題

農薬を使って米作りをしている方のお話を聞いた後，「自分も農薬を使いたい」という意見が大幅に増えた。ゲストティーチャーの影響の大きさを実感するとともに，授業の組み立て方次第で，子どもの思考を一定の方向へ向けることになると分かった。ＥＳＤが大切にしている「多様な価値観を認め，尊重する」「ただ一つの正解をあらかじめ用意しない」の考え方からも，子どもたちには多様な情報を与え，その中で自分なりに考える学習展開を保証することが必要だった。今回の実践では，農薬を使う農家の方と無農薬で米作りをする農家の方の両方からお話を聞くべきだった。

このように考えると，ＥＳＤを取り入れた学習活動では，教師の手による単元構想や授業の仕掛けがとても重要になってくる。要素が点在するだけのＥＳＤにならないように，しっかりとした構想を立て，真の「持続発展教育」を追究していきたい。

また，今年度重点的に取り組んだ５年の実践を参考に，他の学年のＥＳＤも更に深めて，学校ぐるみでＥＳＤ実践カリキュラムの開発に取り組み，子どもたちに持続可能な社会をつくるための基礎となる見方や考え方を身に付けさせていきたい。

※参考文献

1)「Ｎｅｗ！ＥＳＤカレンダーのすすめ」江東区立八名川小学校　2011.6.3

2)「学校における持続可能な発展のための教育（ＥＳＤ）に関する研究（中間報告書)」国立教育政策研究所　2010.9

資料１　平成２３年度　第１学年　総合学習「生きる」年間計画（「ぼくもわたしも おがわっこ」を中心としたＥＳＤカレンダー）　東浦町立緒川小学校
テーマ「やさしいがんばりやがいっぱいの　にじいろのくにをつくろう」

ＥＳＤの視点	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
	テーマをかんがえよう② **主体的な思考**										
自然とのつながり	きせつをたのしもうⅡ⑮ （１）はるとあそぼう （２）おおきくなあれ，わたしのはな ・あさがおをそだてよう　**環境教育** （３）プールのなかのいきものをたすけよう （４）なつとあそぼう ・アイスソーダをつくってペアをしょうたいしよう **体験型活動**				きせつをたのしもうⅡ⑰ （１）おおきくなあれ，わたしのはな ・あさがおのたねをとろう （２）あきとあそぼう　（関連：フェスティバル） **環境教育** ・ファッションショーをしよう，その他 （３）ぎょうじをたのしもう ・おつきみだんごをつくってペアをしょうたいしよう **体験型活動**				きせつをたのしもうⅢ⑦ （１）ふゆとあそぼう （２）おおきくなあれ，わたしのはな　**環境教育** ・チューリップのきゅうこんをうえよう （３）おこしものをつくってペアをしょうたいしよう （関連：「ペアの６年生ありがとうのかい」をひらこう） **体験型活動**		
社会とのつながり **人とのつながり**	ぼくもわたしもおがわっこ（入門期）⑧ ぼくもわたしも　おがわっこⅠ⑫ （１）がっこうのことをつたえよう ・「あくしゅだいさくせん」をしよう ・「がっこうたんけん」をしよう **つながり重視** （２）くにをつくろう **つながり重視**				ぼくもわたしも　おがわっこⅡ⑬ （１）がっこうのことをつたえよう ・フェスティバルをつくろう　（コーナー） **主体的な行動　やりとげたときの達成感** **つながり重視** （２）おてつだいめいじんになろう **問題解決型学習　体験型活動　肯定感** （３）くにのしごとをたしかめよう **問題解決型学習　体験型活動　主体的な行動**				ぼくもわたしも　おがわっこⅢ⑯ （１）おてつだいめいじんになろう **問題解決型学習　体験型活動　肯定感** （２）くにのしごとをまとめよう **問題解決型学習　体験型活動　主体的** （３）がっこうのことをつたえよう ・「しん１ねんせいをむかえるかい」をひらこう（関連：国） ・「おおきくなったよ，ありがとう！のかい」をひらこう（関連：国） ・「ペアの６年生ありがとうのかい」をひらこう　（関連：学） **やりとげたときの達成感** **つながり重視　肯定感**		
教科等との関連	道徳 感謝の気持ちをもって 学校でお世話になっている人への感謝				国語 これはなんでしょう 発表会 **関わる人が互いに学び会える** 道徳 家族への気持ち 家族の役に立つ喜び				国語 ことばっておもしろいな ことばをたのしもう 発表会 国語 おはなしをたのしもう おもいだしてかこう 発表会 学活 ６年生にありがとうをつたえよう 感謝の気持ち		

資料２　平成２３年度　第２学年　総合学習「生きる」年間計画（「お川のまちをたんけんしよう」を中心としたＥＳＤカレンダー）　東浦町立緒川小学校
テーマ「『しりたい！見たい！つたえたい！』はてな戦隊Gyo2レンジャー」

ＥＳＤの視点	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
	活動を考え，テーマを考えよう② **主体的な思考**										
自然とのつながり		やさいをそだてようⅠ⑫ ガイダンス・苗植・観察 **栽培活動**				やさいをそだてようⅡ⑤ サツマイモの収穫・冬野菜の苗植 **栽培活動・体験型活動**				やさいをそだてようⅢ⑧ 冬野菜の収穫 **体験型活動**	
社会とのつながり		お川のまちをたんけんしようⅠ⑮				お川のまちをたんけんしようⅡ㉚				ゆうびんきょくをひらこう④	
人とのつながり		ガイダンス・コース決め プレ探検・まとめ **体験型活動・地域連携**			ガイダンス・本探検・発表会・まとめ **体験型活動　地域連携・多様な立場の人と学ぶ** フェスティバルをつくろう⑦ ガイダンス・コーナー **主体的な行動・やり遂げたときの充実感** **関わる人が互いに学び合える** あんなに小さかったのに⑥ 自分の誕生 **生命尊重**					郵便活動 **体験型活動** あんなに小さかったのに⑯ 自分の成長を振り返る・まとめ **生命尊重・多様性の尊重**	
教科等との関連		国語 だいじなことをおとさずに話したり聞いたりしよう プレ探検発表会 **関わる人が互いに学び合える**			国語 しょうかい文をかこう 新聞作り 音楽 おまつりの音楽 太鼓の音色やリズム 道徳 大すき緒川おせわになった人へ 郷土に愛着をもつ **地域連携** 国語 図書館のひみつをさぐろう 本探検発表会 **関わる人が互いに学び合える**						

資料３　平成２３年度　第３学年　総合学習「生きる」年間計画（「おじいさん，おばあさんから学ぼう」を中心としたＥＳＤカレンダー）　　東浦町立緒川小学校
テーマ「東楽会の人たちとタイムスリップ　うきうき楽しく調べよう」

ＥＳＤの視点	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
	活動を考え，テーマを決めよう　④ テーマの話し合い **主体的な思考**										
自然とのつながり											
社会とのつながり		おじいさん，おばあさんから学ぼう 東楽会の人たちとなかよくなろうの会をしよう　⑧	昔の遊びを作ろう　⑭		おじいさん，おばあさんから学ぼう 昔のくらしを体験しよう　⑧				おじいさんおばあさんから学ぼう 戦争のころの話を聞こう④		おじいさんおばあさんから学ぼう ありがとうの会を開こう⑱
人とのつながり		昔の話を聞く **多様な世代の人と学ぶ** **体験型活動・地域連携**	昔の遊び作り （竹馬・竹ぽっくり・竹てっぽう・竹とんぼ）		昔のくらし体験 （すいとん・おにまんじゅう・かまど・七輪・縄ない・五右衛門風呂） **多様な世代の人と学ぶ** **体験型活動・地域連携**		フェスティバルを創ろう　⑭ シンボル・コーナー **子どもの主体的な思考** **やり遂げたときの充実感**		戦争のころの話を聞く **多様な世代の人と学ぶ** **民主主義の理解と促進**		東楽会の人たちへの感謝する会 **子どもの主体的な思考や行動** **やり遂げたときの充実感**
教科等との関連			国語 手紙を書こう お礼の手紙		社会 昔の道具と人びとのくらし 地域の人々の知恵や願い 地域連携	社会 昔からつたわる行事 地域に残る文化財や年中行事 **地域の文化財**			国語 物語の感想をまとめよう （ちいちゃんのかげおくり） 戦争に関する物語 **平和教育**		道徳 お年寄りに感謝しよう

資料４　平成２３年度　第４学年　総合学習「生きる」年間計画（「環境問題について考えよう」を中心としたＥＳＤカレンダー）　東浦町立緒川小学校
テーマ「地球を守ろう　ぼくたち，わたしたちにできること」

ＥＳＤの視点	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
	テーマを決めて，活動内容を考えよう　② **主体的な思考**										
自然とのつながり			環境問題について考えよう　自分にもできるエコ活動を考えよう　⑩ 調べ学習 **主体的な行動** **やり遂げたときの充実感**								
社会とのつながり		環境問題について考えよう　環境問題について知ろう　⑩ 校外学習 地球環境教室 **体験型活動・地域連携**	（ｸﾘｰﾝｾﾝﾀｰ・浄水場）		環境問題について考えよう　学年でできるエコ活動をしよう　⑥ 地域のごみ清掃など **体験型活動・地域連携**						
人とのつながり					環境問題について考えよう　環境に関する自由研究発表会　② 個人活動のまとめ	環境問題について考えよう　環境をテーマにフェスティバルをつくろう　⑭ コーナーモニュメント **主体的な行動** **関わる人が互いに学び合える**		１/２成人式に向けて10年の人生をふりかえる　⑥ 自分の人生に関わった人 **主体的な行動**	１/２成人式をつくろう（環境に関連）　⑱ どんな大人になりたいか **主体的な行動** **関わる人が互いに学び合える**		１年間の学習のまとめ　② 相互発表 **関わる人が互いに学び合える**
教科等との関連	社会　ごみのしまつと活用 ごみ処理に関わる対策や事業 **環境教育**	社会　命とくらしをささえる水 飲料水の確保に関わる対策や事業 **環境教育**	道徳　自然のすばらしさ 自然を大切にする気持ち		国語　調べて発表しよう 自由研究発表会 **関わる人が互いに学び合える**						

資料５　平成２３年度　第６学年　総合学習「生きる」年間計画（「国際人になろう」を中心としたＥＳＤカレンダー）　東浦町立緒川小学校
テーマ「夢に向かって　未来へのつばさをひろげよう　自分の人生を歩みながら」

ＥＳＤの視点	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
	活動を考えテーマを決めよう③ **主体的な思考**										
自然とのつながり											
社会とのつながり			国際人になろう　⑩ 外国の生活や文化について調べよう		国際人になろう 修学旅行を創ろう⑪ 分散研修 **体験型活動・主体的な行動**		自叙伝を書こう　⑧		最後の学習を創ろう㉚		
人とのつながり		異文化を知り，自国文化を知る リトルワールド訪問 **多様性尊重** **国際理解教育**			フェスティバルを創ろう　⑧ コーナー・モニュメント **主体的な行動** **関わる人が互いに学びあえる**		誕生から家族・人・社会とのつながりを見つめ直す 家族への感謝 **生命尊重**		恩師・保護者への感謝の会 愛校作業 感謝のプレゼント 最後の学習での呼びかけ 家族・支えてくれた人への感謝 **体験型活動・主体的な思考や行動**		
教科等との関連	道徳 広い心で世界の人々と 日本の文化に誇りをもつ	家庭 くふうしよう！季節に合うくらし 気候に合わせたくらしの工夫	社会 日本とつながりの深い国々 異なる文化や習慣を理解する **異文化理解**	社会 国際連合と日本人の役割 国際社会の平和と発展 **国際貢献**	社会 新しい国づくりをめざす 天皇を中心とする政治の仕組み **自国文化理解**						